

産経新聞 平成27年3月1日(日)

若年層の情報機器の利用状況やインターネットの落とし穴などについて話し合う「スマホサミット in ひょうご」が28日、神戸市中央区の県民会館で開かれた。県内の小中学生や高校生が、ネット上でのトラブル対処法などを紹介し、携帯電話やスマートフォンの正しい取り扱い方を学んだ。



児童・生徒らがスマートフォンの利用状況などを報告した
＝神戸市中央区

若年層のスマートフォン所有率が高まり、会員制交流サイト(SNS)を通じた生徒同士のトラブルをはじめ、犯罪に巻き込まれる事案も発生していることから、県や県教育委員会など8団体が開催した。

県内の小学5年～高校3年の約2千人から集計した「ケータイ・スマホアンケート」が発表され、携帯やスマートフォンを所持している児童・生徒の半数近くが「メールを3分以内に返信」「12時より遅く寝る」と回答していることが紹介された。生徒らは「スマートフォンを持っていないと学校の話についていけないことがある」などと報告した。

(写真：意見発表をリードして行った千種高校生徒会長・森脇君)